

## 日本語教員の養成とグローバル人材の育成

中 川 良 雄

〈Summary〉

In Japanese Teacher Training Course of University, we exhaust many graduates every year. However, all the graduates do not take a Japanese teacher and get the social various jobs area.

Japan advances surely to the direction of the globalization now. As for the mission of the university in the society, interest is poured into upbringing of the global talented person. Then is the global talented person a person with what kind of nature and ability?

In such occasion, a global talented person with cross-cultural understanding and the cross-cultural communicative competence has been demanded, but may a graduate student of Japanese Teacher Training Course play an active part as a global talented person?

In addition, will there be the means to utilize the graduates drained from a course?

We ask the possibility that a Japanese Teacher Training Course graduates can play an active part in this report as a global talented person about nature and ability necessary for a global talented person found in society.

### は じ め に

大学の日本語教員養成課程では、毎年多くの修了生（卒業生）を排出している。しかし修了生の全員が日本語教員に就くわけではなく、社会の様々な職域に就いていく。

日本は今、確実にグローバル化の方向へと進んでいる。社会における大学の使命も、グローバル人材の育成に関心が注がれている。ではグローバル人材とは、どのような資質や能力を備えた人物か。

グローバク化が進展すると、日本語教育を必要とする児童・生徒が増加するばかりでなく、従来の日本型対人コミュニケーションやビジネス・スキルではうまく事が進展しないこともある。

そんな折、異文化理解力や異文化コミュニケーション能力を備えたグローバル人材が求められるが、日本語教員養成課程の修了生がグローバル人材として活躍できる可能性はあるのだろうか。また課程から排出される修了生を活用する手立てはあるのだろうか。

本稿では、社会で求められるグローバル人材に必要な資質や能力について考え、日本語教員養成課程修了生がグローバル人材として活躍できる可能性を問う。また課程の修了生が、大学人としての使命を果たすべく、身に付けた日本語教育力を以て社会に貢献することの必要性について提議を行う。

グローバル社会実現のために、課程の修了生の果たすべき使命について考え、社会への提言を行う。

本稿は、平成 25 年度～平成 27 年度科学研究費補助金基盤研究(C)「日本語教員養成課程修了生の社会貢献とグローバル人材育成に関する構造化研究」の研究成果の一部公開である。

## 1 グローバル人材として求められる資質・能力

### 1.1 教育職員に求められる資質・能力【文部科学省】

文部科学省教育職員養成審議会（1997）「新たな時代に向けた教員養成の改善方策について（第一次答申）」では、「いつの時代も教員に求められる資質能力」として、次のようなものが挙げられている。

- ・教育者としての使命感
- ・人間の成長・発達についての深い理解
- ・幼児・児童・生徒に対する教育的愛情
- ・教科等に関する専門的知識
- ・広く豊かな教養
- ・これらに基づく実践的指導力

続けて「今後特に求められる資質能力」として、

- ① 地球的視座に立って行動するための資質能力
  - ◆ 地球、国家、人間等に対する理解
  - ◆ 豊かな人間性
  - ◆ 国際社会で必要とされる基本的な資質能力
- ② 変化の時代を生きる社会人に求められる資質能力
  - ◆ 課題解決能力
  - ◆ 人間関係に関わる資質能力
  - ◆ 社会の変化に適応するための知識及び技能
- ③ 教員の職務から必然的に求められる資質能力
  - ◆ 幼児・児童・生徒や教育の在り方についての適切な理解
  - ◆ 教職への愛着、誇り、一体感

が挙げられている。今後日本が向かうであろう国際社会を視座に入れた資質や能力を求めていると言えよう。

## 1.2 大学の果たすべき役割（「教育基本法」）

また文部科学省（2008）「教育基本法（平成 18 年 12 月）第 7 条」では、

大学は、学術の中心として、高い教養と専門的能力を培うとともに、深く真理を探求して新たな知見を創造し、これらの成果を広く社会に提供することにより、社会の発展に供するものとする。

2 大学については、自主性、自律性、その他の大学における教育及び研究の特性が尊重されなければならない。

と、大学の社会において果たすべき使命について述べ、「我が国の高等教育の将来像」（平成 17 年 1 月 28 日 中央教育審議会答申より）では、

○大学は教育と研究を本来の使命としているが、同時に、大学に期待される役割も変化しつつあり、現在においては、大学の社会貢献（地域社会・経済社会・国際社会等、広い意味での社会全体の発展への寄与）の重要性が強調されるようになってきている。当然のことながら、教育や研究それ自体が長期的観点からの社会貢献であるが、近年では、国際協力、公開講座や産学官連携等を通じた、より直接的な貢献も求められるようになっており、こうした社会貢献の役割を、言わば大学の「第三の使命」としてとらえていくべき時代となっているものと考えられる。

と、大学の社会への貢献について言及がなされている。

すなわち大学は、研究成果を広く世に還元しなければならない使命を負うと同時に、社会に貢献可能な人材の育成を目指さなければならないことになる。

## 1.3 企業で求められるグローバル人材

大学から排出される人材に企業は何を期待しているのだろうか。

徳永・糊井（2012）は、大学・大学院の修了者の採用にあたり、企業はどのような人材を求めているのか、企業にインタビューした結果の概要を記している。

- 「グローバル人材」として重要なのは必ずしも国際的な対応力ではなく、国内と同様、自分の考えをしっかりともち、それを相手に伝える基礎的な力である。
- 特に「グローバル人材」について、異文化理解、異文化適応力、多様性の受容を求める企業もある。

#### 1.4 企業人が海外勤務で必要とされる能力

友松（2012）は、企業・行政体等職員が海外勤務で必要としている能力として次のようなものを挙げている。

- 語学力
- 異文化コミュニケーションの能力
- ビジネススキル
- 海外での仕事の進め方についての知識
- 相手先の社会や文化、歴史などについての知識
- 日本の文化や歴史などについての知識
- 仕事の専門性

さらに企業職員が自分にもっとも不足すると考える能力として、

- 語学力
- 異文化コミュニケーション能力

であると考えている。

#### 1.5 大学日本語教員養成課程

平成12年3月に文化庁・日本語教員の養成に関する調査研究協力者会議が報告した『日本語教育のための教員養成について』では、「日本語教員養成において必要とされる教育内容」として、コミュニケーションを日本語教育の中核として位置付け、コミュニケーションが「社会・文化」「教育」「言語」の3領域から構成され、さらにそれらを、「社会・文化・地域」「言語と社会」「言語と心理」「言語と情報」「言語」の5区分に分類される考えを示している。そしてその5区分の下位に、「世界と日本」「異文化接触」……「コミュニケーション能力」などの16の内容を挙げている。

大学の日本語教員養成課程では、この「教育内容」に則り、カリキュラムが編成され、日本語教員の養成に供されている。

#### 1.6 日本語教員の資質・能力

現在の日本語教育を取り巻く状況は極めて多様化しており、日本語教育の対象者は、留学生、研修生、帰国子女、ビジネスマン、入国児童生徒など、多様な場面で日本語教育が求められ、日本語教員に必要とされる資質・能力も複雑化せざるをえない。また日本語教員には、そうした学習者とのコミュニケーション能力が求められてくる。

平成12年3月の『日本語教育のための教員養成について』では、「日本語教員として望まれる資質・能力」として、「コミュニケーション」を最重要項目と位置付けた。

同報告書はさらに、

日本語教育とは、広い意味で、コミュニケーションそのものであり、教授者と学習者とは固定的な関係でなく、相互に学び、教え合う実際的なコミュニケーション活動と考えられる。また、このような包括的な概念としてのコミュニケーションは、今回新たに示す教育内容のすべてに共通しその根底をなすものであり、教育内容の基本となるものである。

と、コミュニケーション教育の重要性を強調している。

大学の日本語教員養成課程では、「教育内容」で示された教育内容をもとに、大学それぞれの事情に合わせた日本語教員養成が実施されているが、課程の修了生が、課程で学んだ学科目をいかに受容し、課程修了後いかに変容し、現在の職業でどのように活かしているかを知ることは、課程のあり方や、今後ますます必要となるであろう日本語教員、そして課程修了生の社会貢献について考える上で、貴重な資料となるものと思われる。

### 1.7 望まれる日本語教員の資質・能力

『日本語教育のための教員養成について』（2000）は、望まれる日本語教員の資質・能力について、次の項目を挙げている。

- (ア) 言語教育者として必要とされる学習者に対する実践的なコミュニケーション能力を有していること。
- (イ) 日本語ばかりでなく広く言語に対して深い関心と鋭い言語感覚を有していること。
- (ウ) 国際的な活動を行う教育者として、豊かな国際的感覚と人間性を備えていること。
- (エ) 日本語教育の専門家として、自らの職業の専門性とその意義についての自覚と情熱を有すること。

すなわち大学の日本語教員養成課程においては、「コミュニケーション」を中核とするカリキュラムを展開しつつ、上記資質・能力の獲得が目指されなければならない。

しかし課程の修了生がすべて日本語教員に就くわけではなく、他の学科目教員、地方公務員、一般企業、サービス業など、課程の修了生は様々な職域へと就いていく。

ここで問題となるのは、課程の修了生が課程で身に付けた学科目に関する知識や能力をそれぞれの職域でいかに活用しているか、という提題に応えなければならないということである。

### 1.8 本稿の主眼とするグローバル人材の育成

上記より、次の課題を解決することが、本稿の主眼とするグローバル人材育成のためのキーワードとなる。

- (1) 教員として必要とされる資質や能力
  - a. 国際社会で必要とされる教員の資質や能力
  - b. 人間関係を豊かにするための資質や能力
- (2) 高い教養と学際的能力
  - a. 社会の発展に寄与できる能力
  - b. 大学の社会貢献（地域社会，経済社会，国際貢献）
- (3) 社会貢献可能な人材の育成
  - a. グローバル人材の育成
  - b. 異文化理解力，異文化適応力，異文化コミュニケーション力，語学力の育成
- (4) ビジネス・スキル
  - a. 海外での仕事の進め方
  - b. 相手先の社会や文化についての知識
  - c. 日本の社会や文化についての知識

## 2 日本語教員養成課程とグローバル人材

### 2.1 中川（2013a, b）の知見

文化庁・日本語教員の養成に関する調査研究協力者会議（2000）『日本語教育のための教育内容』では、「日本語教員の養成において必要とされる教育内容」として、157の内容（項目）が示されている。中川（2013 a, b）では、それら157の項目のうち複数の項目を合体して一つの項

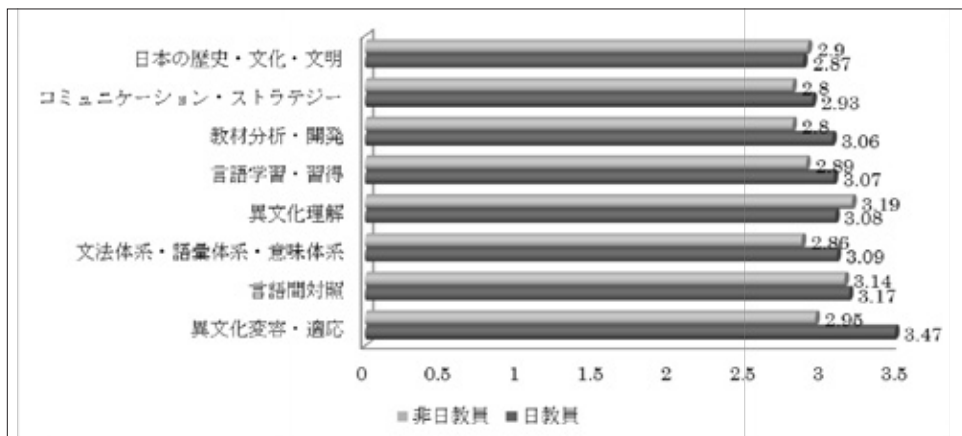


図1 日本語教員養成課程で学んだ学科目 上位8科目

目としてまとめ、合計 59 の項目について、それぞれが「現在の職業にどの程度活かされているか」を問う、4 件法によるアンケート調査を実施した。

その結果をおしなべて言えば、図 1 に示すごとく、日本語教員、非日本語教員を問わず、ポイント上位学科目（8 項目）は、すべて共通し、「異文化」「コミュニケーション」に加えて、「対照言語学」や「教材分析」などのいわば学科の「売り」とする学科目であることが知られた。さらに「日本の歴史・文化・文明」といった、海外に目を向けるばかりでなく、日本国内についての知識も有用である。

## 2.2 中川（2014）におけるアンケート調査

中川（2014）では、上記アンケート対象者に、「大学で学んだ学科目のうち、現在のあなたの職業にもっとも役立っているのは、どんな学科目ですか。」と問う記述回答を求めたところ、日本語教員養成課程修了生が、主専攻・副専攻を問わずもっとも現在の職業に活かされていると感じる学科目は、

### ① 日本語教育実習・実践

である。その理由として、「人に伝えることを学ぶ」というのがあったが、実践科目として、課程の「看板」科目になると考えられる。

### ② 日本語教授法

上記①同様、日本語教員養成課程の主要な学科目であるが、日本語教員はもちろんのこと、小学校教員や学習支援教員、教員機関職員が活かされていると感じている。「教職科目」で学ぶ「教科教育法」とは違った、「コミュニケーション主体」の方法論が学べるところに意義がある。

### ③ 音声学・音韻論

### ④ 異文化理解・異文化（多文化）コミュニケーション

### ⑤ 日本語学・日本語文法

上記①～⑤は、中川（2013 a, b）でポイント上位に挙がってきた学科目で、やはり課程の「売り」となるものである。

## 3 日本語教育の社会貢献

### 3.1 日本語教育が必要な児童・生徒に対する日本語教育

門倉（2011）は、「日本語教育の社会貢献」として、「日本語教育の日本社会への貢献として、日本人のコミュニケーション力の向上に寄与することがあります。地域日本語教室では、そうしたコミュニケーション力が自発的に育っています。そして外国人児童と接する日本人児童にも、それは求められています。」と述べ、日本語教育が日本人のコミュニケーション力の向上、ひいては日本社会への貢献につながることを示唆している。

日本で働く外国人労働者の増加に伴い、日本語教育が必要な児童・生徒の数も増加の一途を

辿っている。また児童・生徒が日常生活で使用する言語（第一言語＝母語）も、ポルトガル語、スペイン語、中国語、タガログ語など多岐に渡り、中でもポルトガル語、スペイン語、中国語が全体の7割を占めている<sup>1)</sup>（文化庁調べ）。

異文化理解力や異文化コミュニケーション能力のみならず、日本語教授能力に長けた日本語教員養成課程の修了生が、日本語教育が必要な児童・生徒の日本語教育を担っていくことが望まれる。

まだ児童・生徒の母語の理解できる教員が配置されることが好ましい。日本語教員養成課程の学生には、英語に偏重することなく、複数言語・多言語を身に付け、多言語コミュニケーション力を養っていく必要がある。

さらに日本語教員養成課程修了生の活躍の舞台として、地域日本語教室が考えられる。過程においては、コース・デザインや教材開発、クラスルーム運営等についても学修しており、日本語指導コーディネーターとしての活躍が期待される。

市町村の国際化、グローバル化に寄与できるはずである。

### 3.2 「在野」の日本語教員

日本語教員養成課程を修了しても日本語教員に就かない者の多い現状の背景には、需給バランスの問題や雇用形態、待遇面、将来への不安などで、日本語教員には、一般企業に比してマイナス要因の多いことが挙げられる。一方で地球のグローバル化や国内外における日本語学習者の増加、日本国内のいわゆるニューカマーの急増などで、日本語教員とはいわずとも、日本語教育の知見を備えた人材の求められることも事実である。

この日本語教員にならない課程修了生の活用について鈴木（2011）は、

日本語教師養成課程で育成する専門性を内省的実践家であることに見定め、修了後に日本語教師とならない者も、「在野の日本語教師」として生態学的リテラシーを生かし、社会に寄与できる。……日本語教育も教育学の一分野であり、教育の持つ人間的援助の本質に目を向ければ、日本語教育専攻者は日本語を用いて他者との交渉、そしてその背後にある社会のあり方への批判的内省を他者と協働的に行っていくことが重要である。……「在野の日本語教師の専門性」とは、生態学的リテラシーを発揮して他者と関わり、自らの日本語使用を通して地域住民の結節点となり、社会を変革していくことである。

と論じ、

「在野の日本語教師」を育てることは、今日の日本語教育が社会に対して可能な貢献の一つではないだろうか。



と結んでいる。

中川（2013a, b）、中川（2014）に見るごとく、課程の修了生は、すべてが日本語教員に就くわけではない。しかし上記「2 日本語教員養成課程とグローバル人材」に見るごとく、たとえ日本語教員に就かなくとも、異文化理解や異文化コミュニケーション能力、日本語教授能力を身に付けているのであれば、課程の修了生を社会に活用しない手はない。

一般企業に就こうとも、企業では外国人が就労し、研修生の受け入れが進んでいる。看護・介護研修生を受け入れなければ、日本の看護・介護医療は成り立たなくなってきた。専門性と豊かな人間性を備えた日本語教員養成課程の修了生が活躍できる舞台は、ますます広がって然るべきであろう。

### 3.3 ビジネス・シーンにおける日本語教員養成課程修了生の活躍

日本は確実に国際化・グローバル化の方向へ舵を切っている。そんな中で求められるグローバル人材は、どのような資質や能力を身に付け、日本語教員養成課程ひいては大学ではどのような人材の育成が目指されなければならないのだろうか。

企業では外国人労働者を積極的に受け入れ、外国人と協働する、外国企業相手にビジネスを展開する、海外勤務するといった機会もまれではなくなってきた。そこで必要となるのが、相手先でのビジネス交渉となるが、日本語教員養成課程では、会話分析や談話分析を通じて、日本語を客観的に見直し、外国語の発話スタイルなどについて学修している。例えば日本語及び外国語の依頼や断りの仕方、謝罪や賞賛の仕方、相槌の打ち方などを学び、ミス・コミュニケーションをなくす工夫を心得ている。

外国人との接触を通じて、身をもって実感していることも多い。

1.4 で述べた「企業が求めるグローバル人材」においても、異文化理解や異文化コミュニケーションの能力は言うまでもなく、外国の文化や自国の文化を客観的に眺める目を養っている。

企業が向かうグローバル化、日本が目指す国際化にとって、日本語教員養成課程修了生は、限らない知識と能力を提供できるはずである。

さらに心配される災害時に備えて、外国人住民にも情報を伝える必要があることは、近年緊急の課題となっているが、多国籍化する日本社会において、外国人の母語で情報を伝達するにはかなりの無理がある。そこで日本語教育の素養を持つ課程の修了生には、「やさしい日本語」で情報を伝達する能力を身に付けているはずである。近隣の外国籍住民に対し、情報伝達の場において、課程の修了生の活躍の可能性が生まれる。

## 4 おわりに

日本は今、確実にグローバル化の方向に向かっている。日本語教員養成課程の修了生は、日本のグローバル化に欠かせない知識と能力を提供できる準備がある、と言っても決して過言ではな

い。

本稿で述べた、日本語教員養成課程修了生の社会貢献についてまとめ、グローバル社会への提言としておきたい。

- ① 日本語教員養成課程修了生は、日本のグローバル化に必要な異文化理解力、異文化コミュニケーション能力を身に付けている。
- ② 課程の修了生は、日本語指導のための日本語教授能力や教材開発能力を身に付けている。
- ③ グローバル化に必要な語学力とは、決して英語力に留まるのではなく、複数言語・多言語を身に付けることである。
- ④ 日本語や他言語によるコミュニケーション・スタイルを身に付けることも、外国人とのコミュニケーションには重要である。

自国や相手先国の文化や諸習慣を理解することも、ビジネス交渉には重要である。

このように考えてくると、日本語教員養成課程の修了生は、日本のグローバル化、地域のグローバル化に多大な可能性を秘めているものと考えられ、積極的な活用が望まれる。

課程の修了生には、日本語教員に就くばかりが課程での学修の集大成と考えるのではなく、日本のグローバル化の進展に寄与できるだけの資質と能力を備えていることへの自覚も必要となろう。

## 注

- 1) 平成 19 年 9 月現在、公立の小・中・高等学校等に在籍する外国人児童生徒のうち日本語指導が必要な者は約 2 万 5 千人在籍しており、日常生活で使用する言語（母語＝第一言語）別外国人児童生徒数を母語別にみると、ポルトガル語が 10,206 人で最も多く、全体の 4 割を占めている。またポルトガル語、中国語、スペイン語が全体の 7 割を占め、調査開始以来最多となった。（文化庁『外国人に対する日本語教育について』）

## 参考文献

- 門倉正美 (2011) 「日本語教育の社会貢献とは？」 [http://www.intercultural.jp/seminar/sympo\\_111123-p1-1.pdf](http://www.intercultural.jp/seminar/sympo_111123-p1-1.pdf)
- 鈴木寿子 (2011) 『『日本語教師にならない人』にとっても有益な日本語教師養成はどうあるべきか——開放的教師養成の一考察——』『リテラシーズ』8, くろしお出版, pp. 30-38.
- (2012) 「共生社会における日本語教師養成のための一考察——言語生態学的内省モデルの提案——」『人文科学研究』No. 8, pp. 15-26.
- 徳永保・初井圭子 (2012) 『グローバル人材育成のための大学評価——大学はグローバル展開企業の要請に応えられるか——』協同出版株式会社。
- 友松篤信編 (2012) 『グローバルキャリア教育 グローバル人材の育成』株式会社ナカニシヤ出版。
- 中川良雄 (2005) 「日本語教員養成における実践能力の育成と教育実習の理念に関する調査研

- 究——2004年度調査中間報告——1 調査研究の概要』『無差』第12号, 京都外国語大学日本語学科, pp. 75-79.
- (2006) 「日本語教員に求められるコミュニケーション能力に関する調査」『無差』第14号, 京都外国語大学日本語学科, pp. 41-47.
- (2006) 『日本語教員養成における実践能力の育成と教育実習の理念に関する調査研究』(平成16年度～平成17年度科学研究費補助10金基盤研究(B)) (課題番号: 16320068, 研究代表者: 中川良雄) 研究成果報告書)。
- (2007 a) 「日本語教員が考える日本語コミュニケーション能力——大学の日本語教員の場合——」『研究論叢』京都外国語大学, pp. 158-174.
- (2007 b) 「日本語教員が考える日本語コミュニケーション能力——日本と中国の日本語教員の場合——」『日本語教育方法研究会誌』vol. 14 No. 2 日本語教育方法研究会, pp. 44-45.
- (2008 a) 「日本語教員に求められる日本語コミュニケーション能力」『無差』第15号, 京都愛国語大学日本語学科, pp. 49-57.
- (2008 b) 「中国の日本語教員と学習者が考える日本語コミュニケーション能力」『研究論叢』第70号, 京都外国語大学, pp. 277-290.
- (2008 c) 「中国の日本語教員が考える日本語コミュニケーション能力」『大学日本語教員養成課程研究協議会論集』2006・2007, 大学日本語教員養成課程研究協議会, pp. 70-75.
- (2008 d) 「日本語教育と日本語コミュニケーション能力——台湾の高校生と大学生が考える日本語コミュニケーション能力——」『総合学術研究』第7号, 日本総合学術学会, pp. 5-12.
- (2008 e) 「韓国の大学生が考える日本語コミュニケーション能力——中国・台湾の大学生との比較を通して——」『研究論叢』第71号, 京都外国語大学, pp. 205-217.
- (2009) 『「求められる日本語教員に日本語教員養成課程はどう応えるか」に関する総合的研究』(平成18年度～平成20年度科学研究費補助金基盤研究(B)) (課題番号: 18320084, 研究代表者: 中川良雄) 研究成果報告書)。
- (2009) 「日本人学生が考える日本語コミュニケーション能力」『研究論叢』第72号, 京都外国語大学。
- (2013 a) 「日本語教員養成課程修了生の日本語教育の受容と変容」『研究論叢』第80号, 京都外国語大学, pp. 151-162.
- (2013 b) 「日本語教員養成課程修了生の日本語教育の受容と変容(2)」『研究論叢』第81号, 京都外国語大学, pp. 196-203.
- (2014) 「日本語教員養成課程修了生の日本語教育の受容と変容(3)」『研究論叢』第82号, 京都外国語大学, pp. 217-226.
- 中川良雄, 林惠敏 (2007) 「日本語学習者が考える日本語コミュニケーション能力——台湾の高校生の場合——」『日本語・日本文化研究』第14号, 京都外国語大学留学生別科, pp. 27-35.
- 文化庁・日本語教員の養成に関する調査研究協力者会議 (2000) 『日本語教育のための教員養成について』。
- 文化庁 (2010) 「外国人に対する日本語教育について」([http://www.bunka.go.jp/kokugo\\_nihongo/bunkasingi/nihongo\\_18/pdf/sanko\\_3.pdf#search=%E6%96%87%E5%8C%96%E5%BA%81%EF%BC%9E%E6%97%A5%E6%9C%AC%E8%AA%9E%E6%95%99%E8%82%B2%E3%81%8C%E5%BF%85%E8%A6%81%E3%81%AA%E5%A4%96%E5%9B%BD%E4%BA%BA%E5%85%90%E7%AB%A5%E3%80%82%E7%94%9F%E5%BE%92](http://www.bunka.go.jp/kokugo_nihongo/bunkasingi/nihongo_18/pdf/sanko_3.pdf#search=%E6%96%87%E5%8C%96%E5%BA%81%EF%BC%9E%E6%97%A5%E6%9C%AC%E8%AA%9E%E6%95%99%E8%82%B2%E3%81%8C%E5%BF%85%E8%A6%81%E3%81%AA%E5%A4%96%E5%9B%BD%E4%BA%BA%E5%85%90%E7%AB%A5%E3%80%82%E7%94%9F%E5%BE%92), 2014年2月11日検索)
- 文部科学省 (2008) 「大学教育改革と大学の社会貢献」[http://www.kk2.ne.jp/kk2library/vbcont/2008/0117nwf/nwf200803/20080117\\_05.pdf#search=%E6%95%99%E8%82%B2%E3%81%AE%E7%A4%BE%E4%BC%9A%E8%B2%A2%E7%8C%AE](http://www.kk2.ne.jp/kk2library/vbcont/2008/0117nwf/nwf200803/20080117_05.pdf#search=%E6%95%99%E8%82%B2%E3%81%AE%E7%A4%BE%E4%BC%9A%E8%B2%A2%E7%8C%AE) (2013年8月29日)

